一般社団法人 日本生態学会
ニュースレター
No.67
2025年9月

次々期会長および時期代議員選挙…………………………………………………… 1

女子中高生夏の学校 2025 実施報告……………………………………………… 2

記事

Ⅰ．第 23 回生態学琵琶湖賞受賞者………………………………………………… 5

Ⅱ．書評依頼図書……………………………………………………………………… 5

Ⅲ．寄贈図書…………………………………………………………………………… 5

京都大学生態学研究センターニュース…………………………………………… 6

一般社団法人日本生態学会
次々期会長および次期代議員選挙

会 員 各 位

一般社団法人日本生態学会選挙管理委員会

定款第 6 条、第 29 条ならびに「一般社団法人日本生態学会役員・代議員選任規則」に従って、日本生態学会の次々期会長（理事兼代表理事）候補者と次期代議員の選挙を行います。ぜひ期間内に投票をよろしくお願いいたします。

(1) 有権者：2025 年 8 月 1 日の時点で会費を 1 年間分以上完納した本会の正会員
(2) 投票期間：**2025 年 10 月 1 日～2025 年 10 月 31 日**
(3) 投票の方法
※投票はウェブ上での電子投票となります。

1. 投票は右記URLより行います。 https://iap-jp.org/esj/vote/member/login
2. 画面に表示される手順にしたがって、**2025年10月31日まで**に投票を完了してください。

女子中高生夏の学校 2025 実施報告

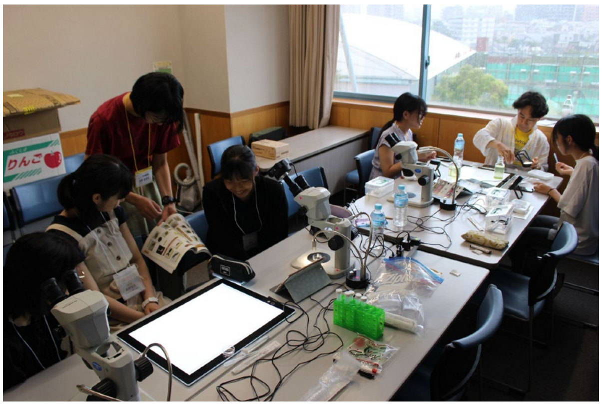
丸岡奈津美、高野（竹中）宏平、木下舞香、鈴木智之

女子中高生夏の学校（通称：夏学）は、女子中高生の理工系進路選択支援事業として 2005 年より開催されている。当初は、科学技術振興機構（JST）の補助事業として、男女共同参画学協会連絡会・国立女性教育会館（NWEC）などの協力のもと行われていた。2018 年に NPO 法人女子中高生理工系キャリアパスプロジェクトが設立され、学協会や企業からの寄附金をベースに、様々な団体、企業、個人の支援のもと、発展してきた。

2019 年までは、全国の女子中高生を対象に、埼玉県嵐山町の国立女性教育会館で 3 泊 4 日の合宿形式で、サイエンスカフェや実習などを実施してきた。新型コロナウィルス感染症のため、2020 年はキャリア相談など一部のみが、2021、2022 年には実習なども加えて、オンラインで実施された。2023 年からは 2 泊 3 日で合宿形式が復活。国立女性教育会館の宿泊施設の閉館に伴い、今回の 2025 年からは、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターでの開催となった。日本生態学会は 2008 年から毎年実習に講師を派遣し、2016 年からはポスター展示、キャリア相談にも参加している。

2025 年は 8 月 9 日（土）～11 日（月・祝）にオンサイト開催され、全国 29 都道府県から 90 名の生徒が参加した。33 名の学生（大学生・大学院生）TA と 287 名の協力団体やスタッフの協力で、実験実習やポスター・キャリア相談、学生企画プログラム、保護者向けプログラムが行われた。

1 日目はキャリア講演、クイズ、他己紹介、理系進路ビンゴ、学年の近い参加者との話し合い、TA との対話等、2 日目は実験・実習「ミニ科学者になろう」、ポスター展示「研究者・技術者と話そう」、「進路・キャリア相談カフェ」、学生企画「キャリアプランニング（タイムラインの作成）」と夕食後の「交流会」等、3 日目は学生企画「キャリアプランニングの発表とディスカッション」等が開催された。夏学 2025 の実施要項やフライヤーはサイトで公開されているので、詳細はこちらをご確認いただきたい。



9 日午前の「ミニ科学者になろう」では、2 時間半に渡り 18 団体が実習を実施した。生態学会からは丸岡が講師を務め、キャリア支援専門委員の高野がスタッフとして参加した。

生態学会の実習タイトルは「顕微鏡で動物プランクトンを見てみよう！」で、５名の生徒（中学３年生２名、高校１年生１名、高校２年生２名）が参加した。

体の構造や生活環を解説し、顕微鏡で生きたミジンコを観察した。さらに、湖沼で採集した固定標本も使い、ミジンコ・ワムシ類の種同定を行った。野外では、環境条件や餌、捕食者など様々な要因が生態系を形作っていることを随時解説しながら、生徒たちは実際に、季節によって出現種が変化することを観察した。

丸岡と高野は 9 日午後に、キャリア支援専門委員会で作成した学会紹介のポスター発表と並行して、キャリア相談「研究者、技術者と話そう」として生物学、農学について個別の質問・相談にも対応した（他の分野は（物理、化学、数学、医歯薬、情報、工学、栄養、建築、天文・宇宙）。

昨年度と同様、生物全般、農作物の品種改良、食虫植物などに興味を持つ生徒がブースに立ち寄ってくれた。生徒の興味に応じて、生物の不思議や生態学の魅力、生態学を学べる大学の学部学科、卒業後の進路等を紹介した。昨年に引き続き、ポスターでロールモデルとして紹介させていただいた黒江美紗子氏、坂田ゆず氏、石田祐子氏、吉井千晶氏、寺田佐恵子氏に改めてお礼申し上げる。

10 日の夕食後には、交流会が開催された。

今年の TA 募集は 4 月 2 日～30 日に行われた（対象：理工系に在籍する女子大学生、大学院生で、交通費の都合上、関東圏から参加できる方を優先）。

木下は、クイズやトークなどの学生企画イベントに TA として参加し、主に生徒との交流を担当した。多くの生徒が将来の夢や目標をすでに持ち、真剣にキャリアプランを考えている姿が印象的であった。また、各企画を通じて自分自身と向き合い、「自分はどのような存在であり、どのような未来を描きたいのか」を深く考える様子も見られた。生徒同士の対話や、理系で活躍されている社会人や研究者、そして少し先を歩む TA との交流は、不安を和らげ、将来の選択肢を広げる機会になったと感じる。さらに、TA 同士でも普段関わることの少ない分野について話すことができ、進学や研究生活に関する考えを共有できたのは大きな収穫であった。自身にとっても、理系の学びの多様性や、進路に向き合う姿勢を改めて考える契機となった。本イベントは、生徒にとってだけでなく、TA にとっても新しい学びや出会いを得られる場であり、今後も多くの人に参加してほしいと感じた。

いままで会場となってきた国立女性教育会館の宿泊施設が閉鎖し、2025 年は 8 月 9 日～11 日に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された。

夏学実行委員会から共有された事後アンケートでは、「理系という分野をこんなにも深掘りする機会はなかなかなかったうえに楽しい企画がたくさんあった」「自分の将来について考えられたし、武器を沢山持てたと思う」「幅広い人と関わることができて、自分の視野が広がった」「その道に進んだ人しかわからないことを聞けて良かった」「沢山の研究者さんの話を聞くことができて、進みたい分野がなんとなく決まった。とても楽しかったし、悩みも解決できた」等の声が寄せられた。

キャリア支援専門委員会では、女子中高生への啓もう活動として今後も参加する予定である。また、若手会員のキャリア形成の一助として、今回の実習のような外部イベントの講師を今後も公募する予定である。興味のある方は教育活動の一環として積極的にチャンスを活用してほしい。

（写真は夏学事務局より提供され、各団体の広報媒体への掲載については、生徒の顔がはっきり映ってない写真の使用が許可されています。）

記　事

Ⅰ．第23回生態学琵琶湖賞受賞者

土居秀幸（京都大学大学院情報学研究科）

Ⅱ．書評依頼図書（2025年1月～2025年9月）

現在、下記の図書が書評依頼図書として学会事務局に届けられています。書評の執筆を希望される方はご所属・氏名・住所・書名を学会事務局(office@esj.ne.jp)までお知らせ下さい。なお、書評は1年以内に掲載されるようご準備下さい。

1. ジョナサン.B.ロソス著・的場知之訳**「ネコはどうしてニャアと鳴くの？すべてのネコ好きに贈る魅惑のモフモフ生態学」**（2025）480pp.　化学同人　ISBN:978-4-7598-2400-1
2. 日本生態学会監修**「フィールド調査のための安全管理マニュアル」**（2025）184pp．朝倉書店　ISBN:978-4-254-18070-1
3. 湯本 貴和・佐久間 大輔・鎌田 磨人・原 慶太郎編**「図説日本の里山ー73 の里山のくらしと生物多様性ー」**（2025）184pp.　朝倉書店　ISBN:978-4-254-17197-6
4. ダニエル.L.ハートル著・藤本 明洋・舘田 英典訳**「集団遺伝学・集団ゲノム学入門　原書第4版」**（2025）352pp.　東京大学出版会　ISBN:978-4-13-060248-8
5. 国立科学博物館監修**「自然史標本のつくり方」**（2025）152pp.　朝倉書店　ISBN:978-4-254-17198-3
6. 深野祐也著**「世界は進化に満ちている」**（2025）150pp.　朝倉書店　ISBN:978-4-00-029734-9
7. DK 社編　清水晶子訳**「まるごとわかる！植物と菌類のサイエンス大図鑑」**（2025）208pp.　河出書房新社　ISBN:978-4-309-25474-6
8. 松村俊和著**「R による自動化・効率化レシピ集」**（2025）280pp.　森北出版　ISBN:978-4-627-85831-2

Ⅲ．寄贈図書

1. 「科学教育振興助成 2024 年度成果報告書」（2025）500pp.　公益財団法人中谷財団
2. 「住友財団　年次報告書 2024」（2025）111pp.　公益財団法人住友財団
3. 「東京大学大気海洋研究所要覧 2025」（2025）65pp.　東京大学大気海洋研究所
4. 「公益財団法人岩谷直治記念財団機関紙『needs』2025 第51号」（2025）　158pp.　公益財団法人岩谷直治記念財団
5. 「公益財団法人岩谷直治記念財団　研究報告書 2025 年度 Vol.48」（2025）257pp.　公益財団法人岩谷直治記念財団

京都大学生態学研究センターニュース

Center for Ecological Research NEWS

京都大学
生態学研究センター
Center for Ecological Research
Kyoto University

京都大学生態学研究センター
〒520-2113 滋賀県大津市平野2丁目509-3
Tel : (077) 549-8200（代表）, Fax : (077) 549-8201
センター長　木庭　啓介

Center for Ecological Research, Kyoto University
2-509-3 Hirano, Otsu, Shiga,
520-2113, Japan
Home page : https://www.ecology.kyoto-u.ac.jp

京都大学生態学研究センターニュースのご紹介

生態学研究センターの活動・イベント、公募共同研究事業の募集案内・報告、運営委員会・協議員会・共同利用運営委員会の要旨、センター員の研究紹介などを掲載したA4版（カラー印刷）のニュースレターで、年2回（7月・1月）発行しています。センターニュースはバックナンバーを含め、センターホームページの以下のURLからご覧いただけます。
https://www.ecology.kyoto-u.ac.jp/newsletter.html#ct3

～2025年7月号の主な掲載内容～

- センター長巻頭言
- センター長を退任するにあたって
- 新任教員・センター員の紹介
- 2025年度共同研究a・ワークショップ・研究集会の採択申請決定
- 2025年度ワークショップ・研究集会の概要
- 2024年度共同利用・共同研究事業の活動報告
- DIWPAだより
- 研究ハイライト
- その他のお知らせ
- Memorandum of Understanding (MOU)
- 2025年度センターの活動予定

プレスリリースされ、京都大学ホームページ等に掲載された研究成果を「研究ハイライト」のコーナーで紹介しています

研究ハイライト

1. 森と川の季節的なつながりがアマゴの多様な生き方を育む
https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research-news/2025-05-21
上田　るい
京都大学生態学研究センター・研究員
佐藤　拓哉
京都大学生態学研究センター・准教授

2. 寄生植物アメリカネナシカズラが維持する植物の多様性
https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research-news/2024-10-25-0
篠原　直登
京都大学生態学研究センター・特定研究員（学振PD）

3. 海と川を行き来する魚は「海らしさ」を失いながらも海由来の物質を川へ届ける
https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research-news/2025-05-30
田中　良輔
京都大学大学院理学研究科（生態学研究センター）博士後期課程
佐藤　拓哉
京都大学生態学研究センター・准教授

2026年度共同利用事業公募のお知らせ

京都大学生態学研究センターは、2010（平成22）年度から『生態学・生物多様性科学における共同利用・共同研究拠点』として活動してまいりました。センターでは生態学の基礎研究の推進と生態学関連の共同研究の推進を目的として、共同研究や研究集会・ワークショップなどの公募を毎年行っています。2026（令和8）年度の公募につきましては11月より開始の予定です。詳細はメイリングリストでご連絡いたします。また、センターホームページにも掲載いたしますのでご参照ください。

◆会費

会費は前納制で、学会の会計年度は 1 月から 12 月までです。
新年度の会費は 9 ～12 月に請求します。会費未納者に対しては 6 月、 9 月に再請求します。

退会する際は、前年 12 月末までに退会届を会員業務窓口まで提出してください。
会費を 1 年分滞納した会員には会誌の発送を停止し、2 年分滞納した時は自動的に退会処分となります。

会費の区分と個人会員の権利・会費

会員種別	基本会費*	大会発表	選挙・被選挙権（役員・代議員）
正会員（一般）	9500 円	○	○
正会員（学生）	4500 円	○	○
賛助会員	20000 円	×	×

*生態学会では収入の少ない一般会員のために、学会費・大会参加費を学生会員と同額にする措置を実施しています。詳細はウェブサイトをご覧ください。

【論文投稿の権利】
・日本生態学会誌　　　正会員のみ有
・保全生態学研究　　　投稿権利は会員に限定されません
・Ecological Research　　投稿権利は会員に限定されません

【冊子配布を希望する会誌の追加費用】
・日本生態学会誌　　2,000 円
・保全生態学研究　　2,000 円

【非会員に向けた学会誌（冊子体）定期購読料】
・日本生態学会誌　　5,000 円
・保全生態学研究　　5,000 円

問合せ先：一般社団法人日本生態学会　会員業務窓口
〒162-0801　東京都新宿区山吹町 358-5　アカデミーセンター
E-mail: esj-post@as.bunken.co.jp
Tel: 03-6824-9381　Fax: 03-5227-8631